

# 「人流、物流、情報のシームレスな利活用を実現するための路側マネジメント実験」 実験計画書(再提出内容)

(和歌山県すさみ町)

## 1. 実験の概要

### 1.1. 実験の背景

#### 1.1.1. 実験地域の概要

すさみ町は、紀伊半島の南西部に位置し、紀伊山地を背に白浜町、古座川町、串本町と隣接し、雄大な太平洋に面している。城下町かつ漁師町であり、狭い平野に多くの住居が密集し、住居の周りを田畑と海、山が取り囲む構造をしている。

また、温暖な気候で世界遺産“紀伊山地の霊場と参詣道”の熊野古道や吉野熊野国立公園、南紀熊野ジオパーク、映画のロケにも用いられる海岸、雄大な自然を有し、ケンケン漁、イノブタ(イノシシ×ブタ)、レタス栽培などの発祥の地でイノベーションを創ってきた町でもある。

過疎化や高齢化が進展している中、町の強みを生かし、DX 社会に適した町へと変革を図る方針をとっている。

今回、実験の対象とする道路は密集した住居地域を縦横する生活道路(一部、国道42号を含む)であり、町役場、銀行、駅等重要施設が生活道路に立地している。一方、実験対象地を含む人口集積地のほとんどが津波避難困難地域となっており、高台移転計画が進んでいる。

#### 1.1.2. 実験地域で発生している事象

すさみ町は、消滅可能性都市上位の町であり、特に過疎化や高齢化が顕著で、人口3,800人の町で、毎年約100人の人口減少が起こっている。高齢化率も47%を超えており、高齢者の生活の足や道路交通の安全性の確保が課題となっている。

また、漁業(カツオ漁)や農業(レタス等)が盛んな町であり物流のニーズは高いところであるが、幹線道路から店や家までのラストワンマイルが脆弱な状態となっている。

さらに二次交通網の衰退により、観光産業の機会損失も進み、観光客数(アウトドア等)の伸びに対して、交通手段や拠点が不十分となっている。また、観光客に対して、南海トラフ地震などの大規模災害に対する備えが懸念されている。

その他、高齢化や人口流出の進展による虫食い状態での空き家や空地も問題となっている。

#### 1.1.3. 事象を引き起こしている要因

前述した事象を引き起こしている直接的要因として、以下のことが挙げられる。

- ・離合が困難で歩道のない幅員の狭い道路が町の中心部を縦横に走る町の構造。
- ・高齢化の急速な進展。高齢者にとって必要不可欠の施設等が密なエリアに立地。
- ・交流人口増のもと平時には町の様々な情報、有事には避難情報等を伝える情報提供インフラが不足。
- ・飲食店や宿泊施設が少なく、また、民間路線バスが撤退し地域交通が脆弱であるなど、来訪者の受入環境が脆弱。

- ・東京から90分と好立地ながら、最寄りの南紀白浜空港からすさみ町への移動手段が限定的であり、観光客等が来訪しづらい。
- ・担い手不足により交通や物流の増大するニーズに対応困難。

これらの要因は急激な高齢化に合わせて、進学や就職を契機に若者が継続的に流出し、地域産業の担い手不足による地域経済の衰退も大きく起因している。

## 1.2. 実験の目的

### 1.2.1. 実験地域が目標とする状態

住居が密集した町の中心部の狭い道路に面した空地などをDX社会に必要な機能を備えた拠点として確保し、シェアリング、小型物流、ドローン、情報提供などの機能を有した小さな拠点を構築する。

また、同時に道路交通安全に必要な道路照明にDXに必要なカメラやセンサー機能を付加し、様々な情報の収集を行うとともにデジタルサイネージを設置し、平時の広報や有事の災害情報を提供することにより、DX社会に対応したインフラを確保し、現在の抱える社会的課題を解決する。

### 1.2.2. 実験地域が解決すべき事象

前述した実験地域が目標とする状態にするため、解決すべき事象を以下に列挙する。

- ・高齢者等の生活の足の確保が不十分。
- ・高齢者によるヒヤリハット事案を含む道路の安全性の低下。
- ・担い手不足による、交通、物流ニーズへの対応が不十分
- ・観光客数(アウトドア等)の伸びに対する交通手段や拠点整備が不十分。
- ・有事における住民及び観光客等の避難のオペレーションの確保が不十分。
- ・空き家や空地への対応が不十分であり景観等へ支障。

### 1.2.3. 事象を解消するための対応策

本実験で事象を解消するための対応策として以下に列挙する。

- ・町の構造に適した小型モビリティの活用促進及び公用車のシェアリング
- ・物流ニーズに対応し、シームレスな配送のため、ドローンや小型自動宅配ロボを活用。
- ・路側の狭い空間を活用したデジタルサイネージによる平時の広報や有事の災害情報提供。
- ・道路照明(街灯)の多機能化や道路情報管理機能を付与したスペースの確保。
- ・路側の空き家や空地を活用した交通、物流の小さな拠点整備。

## 2. 実験実施体制

### 2.1. 協議会の構成、役割分担

以下のとおり、「すさみ町実証実験協議会」の構成、役割について整理する。

表1 協議会の構成、役割分担

構成団体	役割
すさみ町	全体(地元)調整、分析、検証
和歌山県	企画立案、分析、検証
(株)ウフル	実証実験、全体運営
ソフトバンク(株)	実験参加(ドローンを活用した物流実証)
ヤマト運輸(株)	実験参加(小型自動宅配ロボを活用した物流実証)
(株)南紀白浜エアポート	実験参加(小型モビリティシェアリング実証)
和歌山県警串本警察署	交通規制、規制方法指導
すさみ町観光協会	実験協力
和歌山南漁業協同組合すさみ支所	実験協力
国土交通省紀南河川国道事務所	社会実験の制度解説、道路法等関連制度の整理

### 2.2. 合意形成状況

和歌山県: 小型自動宅配ロボ及びドローンの離発着場、デジタルサイネージの整備に係る道路占用許可(調整中)。

串本警察: 小型モビリティ、小型自動宅配ロボ及びドローンの離発着場の整備に係る駐停車禁止規制の実施及び道路使用許可(調整中)。

実験協力者〔イコラ(多世代交流施設)、スーパーオークワ、JA 紀南すさみ支所、すさみ町観光協会(旧警察署)〕: シェアリング実証、物流実証に係る待機場所の利用許可やデジタルサイネージの設置許可(内諾済)

### 2.3. 事務局、問合せ先

社会実験事務局はすさみ町と和歌山県で担い、また、問合せ先として、実験内容については、事務局及び(株)ウフルにて、実験制度については、国土交通省紀南河川国道事務所が受け付けることとした。

表2 事務局、問合せ先

問合せ先	所属	役職名	氏名	電話番号
実験内容	すさみ町実証実験協議会	事務局	中露 竹社 新田 寛樹	0739-55-4801 (すさみ町) 073-441-2331 (和歌山県企画部)
	(株)ウフル	運営担当	那須 一徳	050-1746-8888
実験制度	国土交通省 紀南河川国道事務所	課長	末永 卓	0739-22-4814

## 2.4. 緊急時連絡網

以下に緊急時の連絡網を示す。

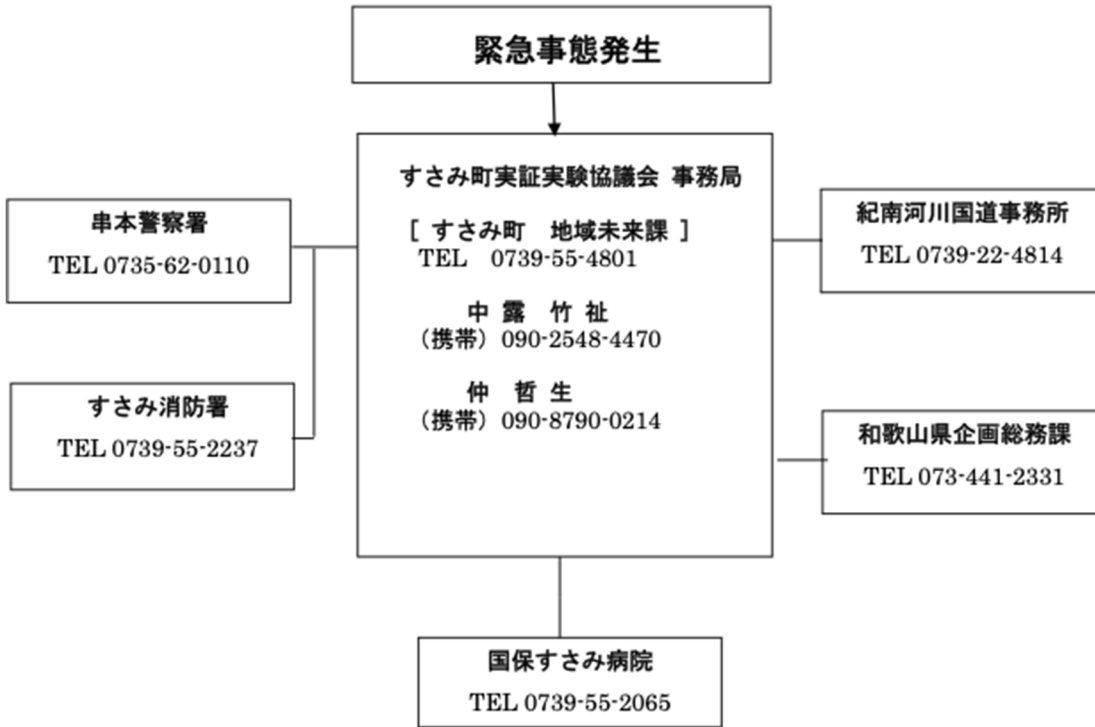


図1 緊急時連絡網

### 3. 実験計画

#### 3.1. 実験内容

- ・すさみ町においては、将来、町中の道路空間に「シェアリングポート」と「荷捌きポート」(兼用も可)を多数設置し、ITを活用することで、ポートの利用効率を最大化。
- ・高齢者、観光客等が自由に乗降できるとともに、生鮮食料品や荷物等の搬送も効率化を図れるようにするために必要とされる道路空間並びに道路情報管理施設に具備される要件を検討。

表3 実証実験と道路空間・道路施設との関係

手法	道路空間 (停車帯)		街灯 (道路情報管理施設)
【実験①】 小型モビリティ(公用車含む)を活用したシェアリング実験	人流	シェアリングポート	○センサーによる満空把握 ○カメラによる安全監視・利活用分析 ○サイネージによる位置情報提示
○小型モビリティの貨客混載実験 【実験②】 ○ドローン物流実験 ○ロボットによる配送実験	物流	荷捌きポート	○センサーによる利活用把握、経路等収集 ○カメラによる安全監視・利活用分析 ○注意喚起装置(スピーカー等)
【実験④】 道路構造の検討	道路空間に具備すべき仕様や性能を検証		道路情報管理施設に具備すべき仕様や性能を検証

【実験③】上記に併せて、設置されたデジタルサイネージによる情報提供等の実証実験も行う

#### 3.1.1. 実験メニュー

実験メニュー(大項目)	手法	実験内容
(1)小型モビリティ(公用車含む)シェアリング	【39】 シェアリング	<ul style="list-style-type: none"> <li>○トヨタコムスや町の公用車(ETC2.0 設置)を活用したシェアリング実証実験を実施。</li> <li>○町内回覧等で事前周知。</li> <li>○役場等を結ぶ生活道路のルート上に4か所(FRONT110、役場前、多世代交流施設イコラ、スーパーオークワ(調整中))の路側拠点(「シェアリングポート」)を設置。</li> <li>○高齢者に適した予約システムや運行管理システムを検証(予算に応じ、プロトタイプやアナログな手法での検証を想定)。</li> <li>○運行が持続可能な料金設定と高齢者の受忍性検証。財務の観点からの検討。</li> <li>○シェアリングポートの街灯(街灯がない箇所は街灯にみたてた代替施設)に設置したカメラやセンサー、ETC2.0 送受信機等で車両を管理。(4)と同一。</li> <li>○小型モビリティと公用車の利活用時の離発着場として必要な空間や施設の機能等を検証。(GPS トラッカー装着による動線分析も含む)</li> <li>○人流と併せて、貨客混載の実験も実施。</li> </ul>

<p>(2)ドローンと小型自動宅配ロボを活用した物流</p>	<p>【9】 路上 荷捌き場</p>	<p>○町中の4箇所(役場前(調整中)、すさみ病院前(調整中)、JA(調整中)、多世代交流施設イコラ(調整中))に離発着拠点(「ドローンポート」)を設定し、拠点間をドローン配送。</p> <p>○ドローン配送ルート検討並びに関係する住民や企業への説明会開催。</p> <p>○ドローンポートのうち役場前の拠点から家や店までのラストマイルを人追従型の小型自動配送ロボ宅配。</p> <p>○ドローンポートの路側空間にドローンの簡易な離発着場を設置。</p> <p>離発着場として必要な仕様や安全性を検証。</p> <p>○ドローンや小型自動配送ロボの運行管理やシームレスな物流のために必要な情報をカメラやセンサーで把握。そのために必要な空間や施設の機能等を検証。</p> <p>○ドローンによる利便性、及び騒音等の受忍性を測定並びにアンケート等による検証。</p>
<p>(3)路側空間に屋外用デジタルサイネージを活用した情報提供</p>	<p>【46】 その他 (防災・危険情報の提供)</p>	<p>○デジタルサイネージを町中に3箇所(役場前、FRONT110、多世代交流施設イコラ)設置。</p> <p>○デジタルサイネージは次の情報を提供。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平時には、すさみ町の行政情報や観光情報、民間の広告等に併せて、シェアリング等の位置情報を提供。</li> <li>・災害時には、通行規制情報や避難指示情報、避難所情報、津波危険情報等を提供。</li> </ul> <p>○町内回覧等により実験実施を周知。あわせて提供してほしい素材をアンケート調査。</p> <p>○街灯等にデジタルサイネージを設置する場合の構造、仕様を検証。</p> <p>○アンケートを通じたコンテンツへのニーズ把握とその評価により、情報基盤施設の配置と住民や観光客等の認知状況を把握し、最も有効な配置やコンテンツのあり方を検証。</p> <p>○映像等の提供による周囲の環境への影響や住民の受忍性の評価。</p>

<p>(4) 道路照明(街灯)の多機能化</p>	<p>【46】 その他 (防災・危険情報の提供)</p>	<p>○小型カメラ、情報の受発信機能、センサー、ETC2.0 送受信装置等を兼ね備えた道路照明施設に求められる構造物としての性能や仕様を検証。</p> <p>○人流や物流のマネジメントに必要とされるデータを収集し分析できる機能など、必要とされる機能を検証。ETC2.0 については国交省から簡易型路側機の貸与を想定。</p> <p>○実証実験ではシェアリングの運行管理や予約管理、位置情報提供、ドローンや小型ロボットを活用した物流に必要な運行管理や荷物管理に必要な情報を収集するデジタルデバイスの設置を前提。</p> <p>○消費電力やメンテナンス等かかる経費を算出の上実現可能性について検証。</p> <p>○さらに、荷さばき等に必要な照度を確保するための性能についても併せて検証。</p>
--------------------------	--------------------------------------	--

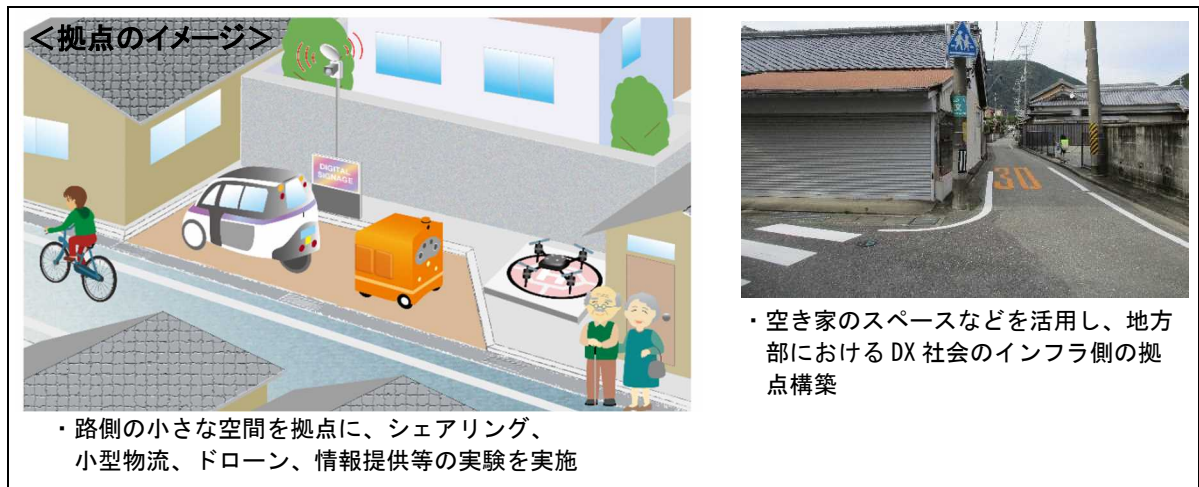


図2 実験のイメージ



図3 実験の位置図

## 【実験①、実験④】小型モビリティを活用した道路空間等の検証実験

- 近い将来、町中に多数設置されたシェアリングポートにおいて、高齢者や観光客が自由に乗降できる交通システムを構築。
- 道路の空地や空き家スペース等を活用したポート設置にあたって、①必要とされる道路空間の要件、②シェアリングシステムを機能させるための道路情報管理施設の要件を検証。

### 使用する車両

- ・1カ月@3回(2カ年)実証実験。

スローモビリティ  
(トヨタ・コムス2台)



(株)南紀白浜エアポート  
よりレンタル

乗用車型 1台



すさみ町所有  
ETC2.0搭載

### 拠点(シェアリングポート)における道路空間

- ・将来は町中にポートを設置し、乗り捨て等可能にする方針。
- ・実験ではFRONT110、役場前、イコラ、スーパーの4か所にポートを設置



### 検証項目

道路空間	・安全な乗降に必要な最小スペース ・空間管理のための施設(ポード等)の要件
道路情報管理施設	・停車可否把握のためのセンサー ・安全性確認のためのカメラ ・位置情報提供のためのサイネージ
車両	・位置情報把握のためのGPSロガー ・利用者特定のためのシステム
デジタル基盤	・予約管理システム ・運行管理システム ・位置情報提供

### 拠点(シェアリングポート)における道路情報管理施設



- ・将来的には情報機器の設置された道路付属物を定義する方針。
- ・シェアリングの管理に必要なとされるセンサーやカメラ等を街灯(またはそれに類する施設)に設置。
- ・設置により追加的に必要とされる耐風、耐震等構造要件や荷重条件の定義。
- ・可能であれば、簡易型ETC2.0路側器を設置し、すさみ公用車の経路、速度等を把握。

出典：日本電気株式会社HP

図4 実証実験①、④の概要



## 【実験②、実験④】ドローンを活用した道路空間等の検証実験

○近い将来、町中に設置されたドローンポートや小型物流ポートにおいて十分な荷さばき空間が確保され、シームレスな小規模の物流結節点を整備。  
 ○道路の空地や空き家スペース等を活用したポート設置にあたって、①必要とされる道路空間の要件、②シームレスな荷さばきを機能させるための道路情報管理施設の要件を検証。

### 使用する車両

- ・ 1カ月@3回（2カ年） スローモビリティ（トヨタ・コムス）
- ・ 1カ月@2回（1カ年） ドローン物流（1週間）
- ・ 1カ月@1回（1カ年） ロボット配送（1週間）



貨客混載  
（シェアリングと一緒に実施）



人追従型の物流配送ロボを活用

### 検証項目

道路空間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全な荷捌きに必要な最小スペース</li> <li>・荷捌き空間確保に必要な施設の要件</li> <li>・ドローン離着陸に必要なスペースや安全装置（配送重量とドローン規格も配慮）</li> </ul>
道路情報管理施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・荷捌きの安全性監視のためのカメラ</li> <li>・離発着情報把握のためのセンサー</li> <li>・危険情報提供のためのスピーカー</li> </ul>
ドローン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・回転翼型にて検討</li> <li>・配送重量を想定した上での最適なドローン抽出</li> </ul>
デジタル基盤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・把握した情報の民間企業側への提供システム</li> <li>・荷捌き空間の予約管理システム</li> <li>・ドローンの運行管理や位置情報提供</li> </ul>

### ドローン物流による荷捌きポート

- 【経路1】すさみ病院の患者の薬を、病院から役場に配送。
- 【経路2】農産物を、JAからイコラ（飲食店あり）に配送。



### 小型モビリティとロボット配送による荷捌きポート

- 小型モビリティにより役場前へ貨客混載により搬送
- 役場前へある特定の個人宅へロボット配送

### 荷捌きに必要なスペースの検討

- ドローンや配送ロボットの荷捌きに必要な空間を検討



ドローンの場合には回転翼型にて検討



小型モビリティから配送ロボットへの積み替えも検討

図5 実証実験②、④の概要

### 3.1.2. 検証項目、検証方法、評価基準

実験メニューに対する、検証項目、検証方法、評価基準を具体的に記載する。評価基準は現況値と目標値(目標とする状態)を設定し、定量的もしくは定性的に評価できるよう留意する。

実験メニューに対して、検証項目が複数ある場合には、検証項目ごとに記載する。アンケート、ヒアリング調査を行う場合には、概要(対象、サンプル数等)を記載する。

実験メニュー	手法	検証項目	検証方法	評価基準
(1)小型モビリティ(公用車含む)シェアリング	【39】 シェアリング	乗降拠点に必要な道路空間	4拠点における実態を、カメラ等を用いて調査	停車方法(前・横等)別 安全な乗降者数の割合 年代別等属性による必要空間 ※貨客混載時も同様の評価
		空間管理のために必要な道路施設(ポラード等)	4拠点における実態をカメラ等を用いて調査	未利用時の利活用頻度 他利用(荷捌き)との重複頻度
		安全な道路空間の確保	すさみ町中心部の細道における自動車旅行度の算出	平均旅行速度 30km 毎時以上の自動車の割合:10%未満
(2)ドローンと小型自動宅配ロボを活用した物流	【9】 路上荷捌き場	荷捌きに必要な道路空間	4拠点における実態を、カメラ等を用いて調査	荷物の属性による必要空間
		荷捌き空間確保に必要な道路施設(ポラード等)	4拠点における実態を、カメラ等を用いて調査	荷捌き時以外での利活用頻度 荷捌きが集中する時間帯 荷捌き時の周辺の状況
		ドローン離発着に必要なスペース	4拠点における実態を、カメラ等を用いて調査	離発着形態別に必要なスペース
		安全な荷捌きのための空間	利用者、住民、民間企業へのアンケート調査	安全だと感じるか否かの頻度調査 利用者や企業の満足度 企業のコスト縮減
(3)路側空間に屋外用デジタルサイネージを活用した情報提供	【46】 その他(防災・危険情報の提供)	効果的な防災情報提供	住民へのアンケート調査	住民の満足度 コンテンツに対する意見要望
		平時における広報の認知度	住民や観光客へのアンケート	満足度 コンテンツに対する意見要望
(4)道路照明(街灯)の多機能化	【46】 その他(防災・危険情報の提供)	構造物としての安全性	構造計算	カメラ等の設置に伴う地震や風への耐荷性の検証
		シェアリングに必要とされる仕様や機能に応じた街灯に具備すべき仕様や性能	住民や企業へのアンケート	道路付属物にカメラ等の常設を目標とした新設時の設置基準の制定 道路付属物にカメラ等の常設を目標とした新設時の課題と懸念 人流・物流マネジメントに必要なデータの検証

		ドローン物流に必要とされる仕様や機能に応じた街灯に具備すべき仕様や性能	住民や企業へのアンケート	道路付属物にカメラ等の常設を目標とした新設時の設置基準の制定 道路付属物にカメラ等の常設を目標とした新設時の課題と懸念 人流・物流マネジメントに必要なデータの検証
--	--	-------------------------------------	--------------	---

### 3.1.3. 評価基準の具体的な確認方法と目標値

(1) 小型モビリティ（公用車含む）シェアリング				
評価基準	現況値	目標値	確認方法	確認時期
駐車状況と安全の確認	無し	カーシェアポート4箇所の設置カメラにより、設定した駐車方法による安全な駐車が出来ているかを100%判定	カメラ映像にて、設定した駐車方法にて利用者が駐車位置内に駐車しているかを目視確認。また駐車時、出発時に安全が保たれているかを目視確認 * 事前に串本警察署、国土交通省紀南河川国道事務所と安全な駐車位置と向きを設定	令和4年2月末 実験終了後～3月中旬まで
安全な乗降者数の割合	無し	カメラ設置4か所にて、周囲の道路・交通状況等に注意した安全な位置への停車を100%判定	カメラ映像にて、利用者乗車、降車または終了、時間データ時間前後で想定する停車位置内に車両が停車しているかを目視確認 * 事前に串本警察署、国土交通省紀南河川国道事務所と安全な停車位置を設定	令和4年2月末 実験終了後～3月中旬まで
年代別等属性による必要空間	無し	カメラ設置4か所にて、周囲の道路・交通状況等に注意した安全な位置への停車判定を100%実施	カメラ映像にて、利用者乗車、降車または終了、時間データ時間前後で、歩行者と扉の接触回数を利用属性と年代別に目視確認	令和4年2月末 実験終了後～3月中旬まで
年代別等属性による必要空間	無し	利用者に乗降に必要な空間が確保されていたかアンケート確認にて90%	アンケートにて全利用ユーザーに乗降に必要な空間が確保されていたかを確認する	令和4年1月中旬～2月中旬まで利用者

		以上の回答を得る	50名程度に実施	
平均旅行速度 30km 毎時以上 の自動車の割 合：10%未満	無し	すさみ町中心部の 細道路を走行する 車両の平均旅行速 度 30km 毎時以上の 割合を 10%未満と することを旨とする。	ETC2.0 プローブデータを 活用し、小型モビリティの 運行時間帯において町の中心 部を走行する車両の旅行 速度を算出し、平均旅行速 度 30km 毎時以上の割合につ いて確認する。  * ETC2.0 からの取得デー タ * 運行日、運行 ID、GPS 時刻 【走行履歴】緯度、経度、 速度	令和 4 年 2 月末 ～令和 5 年 3 月中旬 まで
危険走行の減 少に向けたデー タ活用	無し	危険走行の 5%減 少。	急ブレーキ回数として「挙 動履歴」の前後加速度を集 計し、急ブレーキとみなせる 数値を抽出する。1ヶ月あ たりで集計し、急ブレーキ 率が高い車両や多くみられ る地点に注意喚起を行う。  * ETC2.0 からの取得デー タ * 運行日、運行 ID、GPS 時刻 【挙動履歴】経度、緯度、 前後加速度	令和 4 年 2 月末 ～令和 5 年 3 月中 旬まで
渋滞予測モデ ルの構築に向け たデータ活用 (有識者懇談 会により追加)	無し	町内の道路の走行 車両数が常に一定 以下となるように 調整する	町内の主要道路において 1 日の時間帯別に走行車両数 を集計し、平均値を出す。1 日平均を上回る時間帯や曜 日を抽出し、回避ルートの 推奨アルゴリズムの構築を 検討する。  * ETC2.0 からの取得デー タ * 運行日、運行 ID、GPS 時刻 【走行履歴】経度、緯度、	令和 4 年 2 月末 ～令和 5 年 3 月中 旬まで

			速度	
(4) 道路照明(街灯)の多機能化				
評価基準	現況値	目標値	確認方法	確認時期
カメラ等の設置に伴う地震や風への耐荷性の検証	無し	道路付属物としての耐久性能の確保	構造計算により耐震、耐風等に対する性能が確保されるかを確認	(確認時期) 令和4年3月末
道路付属物にカメラ等を常設を目標とした新設時の課題と懸念	無し	<p>既存道路付属物へのカメラ、センサーの常設を目標とした新設時の全課題と懸念の抽出及び荷さばき等に必要十分な照度を確保</p> <p>※カメラ、センサーは今回選定のもの条件とする。</p> <p>※設置環境条件は今回の実証実験開催地であるすさみ町とし、異なる環境条件における設置条件はその限りではない。</p>	<p>設置業者、機材販売業者、既存道路付属物の所有者、電力会社、ドローン運用者へのヒアリング</p> <p>(内容例) 設置性、耐候性</p>	<p>(設置時) 令和4年1月初旬</p> <p>(検証終了時) 令和4年12月末</p>
人流・物流マネジメントに必要なデータの検証	無し	<p>今回選択したイベントセンサ及び教師データ作成フローで学習させたAIでの認識率の把握と、今後実用に向けた課題抽出及び改善のための仮設立案。</p> <p>*今回選択した教師データ作成フロー：計測地ではなく、効率よくデータを取得できつつ、且つ計測地と条件の</p>	<p>人による認識に対するAIによる認識を比較し、その認識率を抽出。</p> <p>上記抽出された認識率についての考察。</p>	(検証終了時) 令和4年12月末

		近似した場所での 教師データ作成を 行い、それによって 認識用 AI を学習さ せるもの		
--	--	--	--	--

### 3.2. 実験スケジュール

表4 実験スケジュール

実験スケジュール

		9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
実施計画	協議会	☆		☆			☆			☆			☆			☆		☆	
	道路構造WG							☆			☆			☆			☆		☆
多機能化実験 街路灯の	実験	準備			一部機器設置			準備			機器設置								
	調査	分析						分析											
	整理	中間とりまとめ						とりまとめ											
ドローンと宅配 物流実験	実験	準備			ドローン①			準備			ドローン②			小型物流					
	調査	インパクト分析						インパクト分析			インパクト分析								
	整理	とりまとめ						とりまとめ											
小型モビリティ シェアリング	実験	準備			実験①			実験②			実験③								
	調査	アンケート①						アンケート②			アンケート③								
	整理	とりまとめ						とりまとめ			とりまとめ								
サイネージ活用 情報提供実験	実験	準備						コンテンツ開発			サイネージ設置								
	調査							アンケート			アンケート			アンケート					
	整理							とりまとめ											
まとめ	道路構造検討	道路構造令、施設空間等検討																	
	報告書	作成						作成											

### 3.3. 広報、周知方法

表5 広報、周知方法

広報媒体	概要	実施期間	対象者	数量
周知看板 (路側空間)	社会実験の実施を告知する案内看板を作成し、実験実施箇所に至る県道等に計5箇所設置。	実験開始前及び実験期間中	道路利用者	5基
周知看板 (離発着場等)	実験実施の実施を告知する案内看板を作成し、実験を実施する計6箇所に設置。	実験開始前及び実験期間中	ドローン及び小型宅配ロボ離発着場等の施設利用者	6基
町内回覧板	社会実験の告知や注意喚起等の案内を町内回覧板にて町内各戸に周知。	実験開始前及び実験期間中	地域住民	都度
説明会	ドローン及び小型配送ロボの配送ルート等に関する説明会を開催。	実験開始前	漁業関係者、地元企業	3回
町 HP ポスター	社会実験の告知等を町 HP への掲載や、町の周知看板に掲示。	実験開始前及び実験期間中	観光客、町外来訪者	30枚

地域住民・来町者のみなさまへ実験・調査のご協力をお願い

**人流、物流、情報のシームレスな活用を実現するための  
実証実験を実施中**

すさみ町役場、国保すさみ病院、FRONT110、スーパーオークワに  
シェアリング・小型物流ポートを設置する実証実験を実施します。

実施期間／令和4年1月11日(火)～令和4年2月10日(木)  
実施時間／9:00～17:00

- シェアリング・小型物流ポートの区画線内への駐停車はご遠慮ください。
- 走行中の小型モビリティ等の安全確保に向け、ご協力をお願いします。
- 実証実験に関するアンケート調査へのご協力をお願いします。

実証実験のイメージ・実施箇所

「人流、物流、情報のシームレスな活用を実現するための路側マネジメント実験」  
「すさみ町実証実験協議会」事務局  
すさみ町役場: 0739-55-4801

**実証実験**  
この先すさみ町役場前  
(周参見4089)

シェアリング・小型物流ポート  
設置のため

**区画線内への  
駐停車  
ご遠慮  
ください**

実験・調査へのご協力をお願いいたします

時間  
**9:00～17:00**

期間  
令和4年度  
**1月11日(火)～2月10日(木)**

「人流、物流、情報のシームレスな活用を  
実現するための路側マネジメント実験」

「すさみ町実証実験協議会」事務局  
すさみ町役場: 0739-55-4801

地域住民・来町者向けポスター(案)

周知看板(案)